平成　２３　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495100040	事業の開始年月日	平成18年5月1日
		指定年月日	平成18年5月1日
法人名	特定非営利活動法人　楽		
事業所名	ひつじ雲		
所在地	（〒２１２－００１１） 神奈川県川崎市幸区幸町２－６９７		
サービス種別 定員等	■　小規模多機能型居宅介護	登録定員　20 名 通い定員　10 名 宿泊定員　4 名	
	□　認知症対応型共同生活介護	定員　計　名 ユニット数　ユニット	
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた地域、なじみの顔がいる場所での生活を続けていくための支援に力をいれています。
その方法は、利用者の方それぞれの個性に合わせたものです。
また、社会の一員であることの楽しさを共に感じていきたいので、一緒に地域活動への参加をしていきます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人　かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地　横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月27日	評価機関 評価決定日	平成24年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
この事業所は、JR川崎駅・京急川崎駅から徒歩7～8分程の昔ながらの住宅や神社がある住宅地に位置し、建物は木造2階建ての民家を利用しており、駅に近い利便性と落ち着いた住環境をあわせ持っている。門から玄関までの庭は和風のたたずまいで、居間やベランダからは中庭の池やもみじが目に入り、利用者が自分の家のような雰囲気でくつろげる事業所である。

【理念に基づく実践】
法人「楽」の設立時に作成した理念「人格の尊重」「生活の継続性」「社会参加」「自主性の向上」を基本に、住み慣れた地域の中でその人らしい生活を継続できるよう、通い・訪問・泊まりサービスを柔軟に組み合わせたケアの実践に取り組んでいる。

【地域交流】
町内会の一員として、地域のお祭りの準備に職員が参加したり、当日の神輿担ぎに参加している。利用者もお祭りを見学し地域の行事を大切にしている。散歩などの外出時には近所の方と挨拶を交わし、日々の暮らしの中でおつきあいを深めている。管理者と職員1名が幸区の女性消防隊の隊員になっていて救急訓練に参加するなど地域に暮らす一員としての役割を担っている。同一法人が運営する、地域交流施設「ひこうき雲」が近くにあり、近隣の方々の茶話会が開かれており、利用者も参加している。また、送迎の支援を受けて、老人会主催の月1回の集まりに利用者が参加し交流を深めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ　理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ　アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ひつじ雲
ユニット名	

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1，ほぼ全ての利用者の
		○	2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ全ての家族と
		○	2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
			2，数日に1回程度ある
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1，大いに増えている
			2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1，ほぼ全ての家族等が
		○	2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格の尊重」「生活の継続性」「社会参加」「自主性の向上」、法人設立時に作り上げた理念がある。その理念を基に職員間で話合い、様々なケースを支援している。	理念は法人「楽」の設立時に理事長とスタッフで考え作成したもので、居間に掲示し日々目にしている。毎日のミーティングや毎月の職員会議では理念に基づいて話し合い職員間で共有して、その人らしさを大切に支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の婦人消防団や祭事の準備・参加など、各職員がそれぞれ地域での役割を持ち、地域活動を継続している。 利用者も活用できる「ひこうき雲」を設立し、地域の方に開放している。	幸町2丁目町内会に加入して、地域の神社の祭礼に協力したり、幸区の婦人消防団に参加して地域の一員として活動している。同一法人が運営する地域交流施設「ひこうき雲」で利用者も地域の方と交流している。三味線、似顔絵描き、押し絵のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が設けた地域交流の場「ひこうき雲」で、茶話会や食事会を定期的に行っている。地域の方々が気軽に介護相談などできる場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を２ヵ月に１度のペースで開催。地域で暮らし続ける事の可能性など、議題となることが多い。地域活動の実践を報告し、意見を頂いてる。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。参加者は区の高齢者支援課職員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、事業所職員などで、運営報告、意見交換、情報交換、外部評価の報告などが行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川崎市小規模多機能事業者連絡会に参加し、意見交換を行っている。研修事業の委託を受け、協力関係を築いている。	2ヶ月に1度「川崎市小規模多機能事業者連絡会」があり、市の介護保険課、高齢者支援課の職員と連携している。幸区が事務局になっていて、会の企画運営、勉強会を実施している。市のヘルパー研修を受託し、研修生を受け入れている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、職員間で共有している。日中は玄関の鍵はかけず、外へ出たい方とは職員が一緒に行動する。	重要事項説明書に「身体拘束の禁止」を明記し「身体拘束ゼロへの手引き」をテキストとして職員に配布し、研修している。今年の目標を「身体拘束廃止及び倫理委員会を定期的に開催し、身体拘束廃止の更なる徹底を図る」として、事例の検討会を実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	当事業所では「虐待及び身体拘束は一切行わない」という方向で全員徹底し、更にマニュアルも配備している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用を支援する機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用・解約に関しては十分に話合いの時間を設けている。利用に際しては、見学や利用体験をしていただき、不安な気持ちが軽減できる様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎の時間や連絡帳などで、ご家族が気軽に意見を言っていただき、それに応えるようにしている。ご家族主導の家族会も開催され、職員も参加している。	家族や利用者の意見は、送迎時やケアマネジャーが月に1度訪問して聞いている。家族会は「ひつじ雲」主催で年1度定期的に開催している。それ以外にも「家族」主催で不定期に開催されており、その際の連絡事務は事業所が行っている。運営推進委員会にも家族が参加している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議（月１回）や、日々のミーティングで意見交換を常に行っている。	毎日のミーティングや毎月の職員会議で職員の意見交換をしている。必要に応じて個別面談をして職員の意見を聞いている。職員の提案で門から玄関までの敷石を、歩きやすいように改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の精神面や体力面を配慮し、できる限り厚い人員配置ができるように配慮している。但し、現状では赤字を抱えていて、昇給対応はできていない。ひつじ雲の契約できる利用者数に常にあることで経営の安定が図れるようになると考えられ、その時点で給与水準をアップさせることは可能となる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で事例を検討したり、課題について話し合うことができている。また、個々が必要とする研修とその職員に必要な研修内容は必ずしも一致しない。現段階では法人として学んでほしい内容の研修を入れて学んでもらう努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人として、研修企画も積極的に作っている。その機会に他職場の方々との繋がりができるように図っている。小規模多機能型介護サービス事業者連絡会も立ち上がっていて、管理者は交流の場が持てている。全体的に十分だと考えてはいない。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時は、まずは関係作りから行うようにしている。通いの場合は 職員が個別に対応する。訪問も、当面は２～３人の固定した職員が伺いニーズを汲み取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 　サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の段階から、ご家族の思いを受け止め、ひつじ雲として、どのように支援できるのか誠実に対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始と同時進行で、必要としている事を把握していくよう努めている。必要であれば、他のサービスと連携をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物やおやつ作りなど、日常的な事を一緒にしていただいたり、ひつじ雲の中で役割を持っている方もいらっしゃる。会話の中には、人生の先輩であることを改めて感じる事が多くある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ひつじ雲での様子をお伝えしたり、ご自宅での過ごし方をご家族に伺い関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	送迎や散歩の時、ご近所の方々と気軽に挨拶や、会話ができるように支援している。通い慣れた地域の会合に出掛ける支援や、地域の行事に参加できる支援をしている。	日ごろから利用している馴染みの店に、職員と一緒に食材などを買いに出かけている。毎月ある老人会主催の「いこいの家」での集まりに、参加する利用者を送迎し支援している。年賀状を出したい人に出せるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話が合う方同士、席を近くにしたり、自由に移動できるように働き掛けている。職員が間に入ることで関係性が出来たり、利用者同士で楽しめるように環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に利用されていたご家族が、今でも時折立ち寄って下さることがある。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントは本人と家族、あるいは本人のみ、又は家族のみ等、様々な思いを把握するよう努めている。 日々の関わりの中では、言葉や様子から思いを汲み取るようにしている。	利用者それぞれに、個別援助計画の担当者が決まっていて、日常の会話の中で思いを聞いたり、変化を見逃さないで本人本位に汲み取ったりしている。情報は「私の気持ちシート」に追加記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りから、アセスメント表を作成している。また、日々の関わりの中で観察した事を基に“私の姿シート”を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	通いや訪問の時の様子、ご家族からの連絡帳やお話などで状況を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライフサポートプランを採用し、利用者の生活に合った介護計画を作成している。個別援助計画は、介護職員が作成し他職員も一緒に評価し、ケアのあり方を検討している。	個別援助計画は担当職員が記入し、職員間で情報を共有して目標にそって日々の実践記録を記入している。ミーティングで話し合い、評価を記入してケアのあり方を検討している。介護計画の見直しは6ヵ月ごとだが、変化があれば随時話し合い見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の個別記録は、必ず記録している。状況の変化等は、適宜ミーティングの課題とし共有している。それを踏まえ支援内容の見直しなど随時行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の生活のリズムに合わせた送迎の時間設定。ひつじ雲への通い・泊りだけでなく、地域で暮らし続ける為の、自宅への訪問支援など多機能なサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徘徊の可能性がある方に対し、公的機関としてSOSネットワークへ登録。更にインフォーマルな方には、ひつじ雲の連絡先を配布し協力を要請しており、実際ご連絡をいただけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望により、通院の支援を行っている。急変時などは、ご家族やかかりつけ医に連絡をとり、受診等の指示を仰ぎ、対応している。	かかりつけ医への受診は家族対応で行っているが、本人及び家族の希望や状況に合わせて職員が付き添い受診を支援している。受診内容の情報は、家族と事業所で共有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化など観察し看護職員に伝え、ご家族に受診を促している。また、必要に応じて看護職員が通院の付き添いを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医師や院内のソーシャルワーカーと連携をとり情報交換を行っている。在宅生活を継続する為の支援の提案を行い、相談させていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と様々なタイミングで話合う機会を設けている。当事業所で出来る事、出来ない事を明確に伝え、医療や様々な関係者と連携をとるよう努めている。	急変が考えられる状況になったら、早いうちに本人・家族と話し合いを重ね、事業所でできること、できないことを説明して「緊急時対応同意書」を作成し取り交わしている。作成後も話し合いを重ねて方針を共有して支援している。家での家族の看取りを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、事業所で全職員を対象に、救命法の講習を行っている。AEDの設置をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年２回、実施している。職員２名が、地域の婦人消防隊に入隊している。 職員が地域の避難所における「避難所運営会議委員」となる。	職員で自衛消防組織をつくり、その隊長が避難訓練の計画を立てて年2回実施し、消防署に報告している。介護用のおんぶ紐を使い利用者を避難させる職員訓練も行っている。備蓄は日常消耗品や食材はあるが水の備蓄がない。	防災訓練では、夜間での災害や地震を想定した訓練を取り入れ、あらゆる災害に備えると共に水の備蓄を検討されることを期待します。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重した対応をする事を、方針としている。	職員の採用時にプライバシーなどの研修を行い理念に掲げた「人格の尊重」を大事にしている。会話は日常生活らしい大声を出さない会話を心がけている。個人ファイルは鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要に応じ、個別対応を心掛けている。その中で、ご本人の希望や自己決定を尊重し活動を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、援助する体制をとっている。言葉での確認のみならず、体調の変化に合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や、化粧・整容の方法など、その方のこだわりや習慣を大切にしている。		
40	15	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が好きな方、片付けが得意な方、体調に合わせ楽しみながら、やりがいを感じていただけるよう支援している。感謝の言葉を伝え、みんなで食べるという事を楽しんでいる。	献立は法人の栄養士が栄養バランスを考えて作成し、毎月の献立をホームページに載せている。食材は利用者と一緒に購入し職員が手作りしている。できる利用者は、下ごしらえを手伝っている。職員も同じ物を一緒に食べ、必要な介助をしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	確実に食事が摂れるように、その方の状態にあった、柔らかさ・形状を工夫している。環境を整える事も含め配慮している。水分量も体調維持には重要であると方針付け、色々な飲み物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。磨き残しがないように、介助させていただいたり、口腔の状態にあった用具を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で管理し、排泄の失敗がないように、個別にトイレにお誘いしている。歩いてトイレに行き排泄するという事の大切さを支援している。	排泄チェック表を記入し、パターンを把握して様子を見ながら声かけをしている。重度になっても歩いてトイレに行き、排泄ができるように、機能低下を防ぎ維持できるよう支援している。夜間もトイレ誘導をしてトイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事をしっかり摂って頂く、水分を十分に摂って頂く事に加え、体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する時は、お誘いの声掛けを行い、気持ちに配慮している。時間をおいてお誘いしたり、声掛けを工夫し、入浴を楽しんでいただくようにしている。	利用者の体調に合わせたり、個々の状況に合わせて入浴を支援している。通いに来る日に入浴するので毎日入る方もいる。お風呂は個浴で季節のゆず湯も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化に合わせて、休息をとることは大切な事なので、環境を整えて、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時は、説明書の複写を頂くなどして、情報を得ている。通い・訪問において、服薬支援が必要な方には対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来る事、好きな事を聞きだしたり、新たに関心が持てそうな事を提案している。楽しんでできる場面づくりをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	送迎時、ひこうき雲で車両から乗降し、ひつじ雲まで歩いて移動する事で、歩く機会を持っている。 買い物の必要がある方は、一緒に買い物に出かける。天気の良い日は散歩に出かけるなど、日常的に外出する機会を作るようにしている。	天気の良い日は日常的に散歩に出かけている。食材の購入に一緒に出かけたり、個人の買い物に職員が付き添い出かけている。銭湯を貸切で借りて、家族も参加し銭湯へ行く行事や、バスハイクでは、外出支援のボランティアや家族も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方、ご家族が了承されている方は、外出先でコーヒーを飲んだり、生活用品を買ったりする機会を支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ひつじ雲に電話を下さる場合がある。年末の行事として、年賀状を一緒に作成している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家ならではの、親しみやすい空間を作るようにしている。季節にあわせた、温度・湿度の管理には、注意を払っている。	木造2階建ての民家を利用した事業所で、居間は、2間を続けて使い、テーブルを移動させて使っている。居間から庭の池や紅葉したもみじが見え、落ち着いた佇まいである。玄関脇には千両や万両が赤い実をつけて季節感のある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方で、席を隣あわせにするなど、席の工夫をしている。個別対応が必要な方については、職員と過ごしたり、自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、落ち着いて眠れるように配慮している。パジャマを持って来られたり、日頃使いなれた物を持参され、心地良く過ごされるよう支援している。	泊まりの部屋は4つある。ベッドや小さなタンスが置かれ、清潔が保たれ、くつろいで泊まれように配慮されている。利用者はパジャマや使い慣れたもの、嗜好品など個々に合わせて持参している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内では、車椅子は基本的には使用していない。ご自宅で歩いて移動されると同じように、ひつじ雲でも同じ様に支援する。安全に配慮し二人対応で介助する事も多い。		